

自分たちの手で、夢の学校をつくる！

玉田さとみ
高橋喜美恵

(特定営利活動法人バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター:BBED ろう教育センター)

『ろう者の言葉は日本手話です！クチバクや身振りではなく“手話”で授業をして下さい』。しかし、日本では70年以上もの間、ろう者の希望がかなえられることはありませんでした。そしてついに、ろうの青年と親たちが「自分たちの手で学校を作る！」と構造改革特区を使った学校法人の設立をめざすことになりました。

日本には104校のろう学校がありますが、ろう者の言語である日本手話で授業を行っているところは1校もありません。「聞こえない耳で聞き、口形を真似て声を出す」聴覚口話法という教育が行われています。ろう学校では、手話で話すことを禁止し、こどもたちの手を縛ったり叩くなどして手話を使わせないようにしてきました。それは「手話を使うと日本語が覚えられなくなる」という理由からだそうです。しかし、欧米では20年以上前から、アフリカやアジア(中国、韓国、タイ、ベトナム、バングラディッシュなど)では「手話」と「読み書き(書記言語)」という2つの言語を習得させるバイリンガル教育を行っています。ベトナムでは過去10年間、日本からの援助金でアメリカからバイリンガルろう教育の専門家を呼び、05年に「ろう児が聴児と同じレベルの学力を獲得することができた」という成果が報告されました。

日本では、1999年にろう青年たちが「自分たちも手話で教育を受けたら、もっとたくさんの知識を得られたはず」と、ろう児を手話で教育するフリースクール「龍の子学園」を立ち上げました。初期の頃の活動は月に1回。その噂は、瞬く間にクチコミで広がり100人を超えるろう児が全国から集まって来ました。「りんごと銀行、たばことなまこ、口の形が同じ言葉はいくらでもある。読唇で勉強するのは無理。100%わかるのは手話だけ。手話で教えてもらえたら、数学も科学も歴史も何でもわかる。手話という第一言語(母語)があれば、第二言語として日本語の読み書きをしっかりと身につけることができる」とろう者は語ります。

現在、BBED ろう教育センターが運営するフリースクール「龍の子学園」は、区立小学校の空教室を借りて

週4日活動しています。通ってくるこどもは0歳から小学生。みんな手話で元気いっぱい話します。たくさん勉強して、たくさん経験して、将来の夢は、お医者さん、プロ野球選手、警察官、学校の先生…。保護者たちは何度もろう学校に手話で授業をして欲しいと要望しましたが、今の公教育では難しいと断られ続けました。教育制度を変えるには時間がかかる。その間もこどもたちはどんどん成長していく。いろんな意見がある中、BBED ろう教育センターは構造改革特区という制度を使った学校法人を目指し文部科学省や東京都などと交渉。ついに今年の1月25日、「ろう児に対する日本手話と書記日本語による教育」プログラムが、東京都から特区計画として申請されるに至りました。現在、BBED ろう教育センターでは、保護者とスタッフが丸となって特区計画を実践するための“夢の学校設立”に向け大奮闘しています。

ぼくたちの未来を応援して下さい



注) 日本手話は、日本語とは異なる文法・構造をもつ独立した言語です。

<ホームページ>

特定非営利活動法人

バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター
(BBED ろう教育センター) <http://www.bbed.org/>